

シラバス

(秋田看護福祉大学)

頁	授業科目	必修・選択	単位数	学期	担当教員名																																
5-1	地理学 I	選択	2	前期	後藤忠志																																
授業目標	<p>東北地方の主な都市を対象として、気候・地形などの自然環境や人口・産業・交通などの社会環境と、人間生活のとのかかわりについて伝えたい。また、新旧の地形図等を用いて過去100年程度における地域変貌も学ぶ。</p> <p>必要な予備知識は特にないが、授業終了時には以下の3点を主な獲得目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各地域についての基礎知識の習得 2. それらの環境条件との関連した理解 3. マクロ～ミクروسケールでの地域把握 																																				
授業概要・計画	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 10%;">第1回</td><td style="width: 10%;">地理学と地誌</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>地域区分、東北概要</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>地形図の読み方(1)</td></tr> <tr><td>第4回</td><td style="text-align: center;">" (2)</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>大館市(1)</td></tr> <tr><td>第6回</td><td style="text-align: center;">" (2)</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>秋田市</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>仙台市</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>弘前市</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>青森市</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>八戸市</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>盛岡市</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>山形市</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>福島市</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>まとめ</td></tr> <tr><td>第16回</td><td>試験</td></tr> </table>					第1回	地理学と地誌	第2回	地域区分、東北概要	第3回	地形図の読み方(1)	第4回	" (2)	第5回	大館市(1)	第6回	" (2)	第7回	秋田市	第8回	仙台市	第9回	弘前市	第10回	青森市	第11回	八戸市	第12回	盛岡市	第13回	山形市	第14回	福島市	第15回	まとめ	第16回	試験
第1回	地理学と地誌																																				
第2回	地域区分、東北概要																																				
第3回	地形図の読み方(1)																																				
第4回	" (2)																																				
第5回	大館市(1)																																				
第6回	" (2)																																				
第7回	秋田市																																				
第8回	仙台市																																				
第9回	弘前市																																				
第10回	青森市																																				
第11回	八戸市																																				
第12回	盛岡市																																				
第13回	山形市																																				
第14回	福島市																																				
第15回	まとめ																																				
第16回	試験																																				
成績評価の方法	<p>出席状況や普段からの受講態度、授業中に時おり実施する小課題回答の内容、そして学期末定期試験などにより総合的に評価する。</p>																																				
テキスト・参考書等	<p>特定の教科書は使わず、自作資料や視聴覚教材等を利用して授業を進める。参考書は、適宜、授業中に紹介する。</p>																																				
履修上の留意点	<p>学生へのメッセージ： ついでの際にでもいいので、TVやインターネット、雑誌や新聞など各種メディアを視聴するときは、秋田県を含む東北地方関連の番組やニュース、サイト、記事などにも関心を向ける習慣をつけてほしい。</p>																																				
備考																																					

シラバス

(秋田看護福祉大学)

頁	授業科目	必修・選択	単位数	学期	担当教員名
5-2	社会調査論(調査技法の基礎)	選択	2	前期	石川雅典
授業目標	<p>社会調査とは、私たち一人ひとりの個人的見聞を超えた認識をもたらす情報収集活動です。現代社会では実に数多くの社会調査が実施されていて、その中には、私たちの生活や仕事に直接関わるものがかなり見受けられます。同時に、正しい社会調査の実施に対する社会的期待はこれまでになく高まる風潮にあります。本講義では、社会調査の基本的考え方や歴史的意義、調査のプロセスと留意点などを学ぶことを通じ、日常生活の中で接する各種の社会調査の結果を読み解く力や調査実施の力量の向上を目指します。</p>				
授業概要・計画	<p>第1回 社会調査とは何か 第2回 現代社会と社会調査 第3回 社会科学の方法としての社会調査 第4回 社会調査の系譜1 (センサスとソーシャル・サーベイ) 第5回 社会調査の系譜2 (パブリック・オピニオン/マーケティング・リサーチと学術調査) 第6回 社会調査の企画・設計1 (社会調査のプロセスと問題設定) 第7回 社会調査の企画・設計2 (社会調査の種類と方法) 第8回 社会調査の企画・設計3 (標本抽出の原理と方法) 第9回 社会調査の企画・設計4 (ワーディングと質問文作成) 第10回 質的調査の特徴 第11回 調査結果の集計・分析1 (数字の性質とコーディング) 第12回 調査結果の集計・分析2 (集計技法) 第13回 調査結果の集計・分析3 (統計的研究) 第14回 社会調査の認識と倫理 第15回 まとめ 第16回 試験</p>				
成績評価の方法	講義中の小テストと最終試験による総合評価				
テキスト・参考書等	教科書は特に指定しない。参考文献は、大谷信介他編著『社会調査へのアプローチ - 論理と方法 - (第2版)』(ミネルヴァ書房、2005年)。その他適宜講義中に指示します。				
履修上の留意点	学生へのメッセージ: 履修者は、新聞記事等を通じて普段から社会で生じている出来事とその変化について関心を向ける習慣をつけてほしいと思います。				
備考					

シラバス

(秋田看護福祉大学)

頁	授業科目	必修・選択	単位数	学期	担当教員名																																																
5-3	カウンセリング	選択	2	前期	成田 猛																																																
授業目標	<p>カウンセリングの技法は、今日、対人援助職に就こうと考えている人であれば、誰もが修得しておかなければならない技法となりつつある。ここでは、臨床の現場で広く用いられている非指示的カウンセリング(来談者中心療法)の技法に焦点をあて、他の技法と比較しながら学習する。受講者は、この技術を身につけることにより、相手の内的世界が鮮明になることを実感できるようになる。</p>																																																				
授業概要・計画	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 15%;">第1回</td><td style="width: 15%;">カウンセリング</td><td style="width: 70%;"></td></tr> <tr><td>第2回</td><td>クライアントの話(1)</td><td></td></tr> <tr><td>第3回</td><td style="text-align: center;">"</td><td style="text-align: right;">(2)</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>話しの背景(1)</td><td></td></tr> <tr><td>第5回</td><td style="text-align: center;">"</td><td style="text-align: right;">(2)</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>クライアントの心理(1)</td><td></td></tr> <tr><td>第7回</td><td style="text-align: center;">"</td><td style="text-align: right;">(2)</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>クライアントの理解(1)</td><td></td></tr> <tr><td>第9回</td><td style="text-align: center;">"</td><td style="text-align: right;">(2)</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>技法論</td><td>感情の受容</td></tr> <tr><td>第11回</td><td style="text-align: center;">"</td><td>感情の反射</td></tr> <tr><td>第12回</td><td style="text-align: center;">"</td><td>感情の明確化</td></tr> <tr><td>第13回</td><td style="text-align: center;">"</td><td>非指示的リード</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>対話分析</td><td></td></tr> <tr><td>第15回</td><td>まとめ</td><td></td></tr> <tr><td>第16回</td><td>試験</td><td></td></tr> </table>					第1回	カウンセリング		第2回	クライアントの話(1)		第3回	"	(2)	第4回	話しの背景(1)		第5回	"	(2)	第6回	クライアントの心理(1)		第7回	"	(2)	第8回	クライアントの理解(1)		第9回	"	(2)	第10回	技法論	感情の受容	第11回	"	感情の反射	第12回	"	感情の明確化	第13回	"	非指示的リード	第14回	対話分析		第15回	まとめ		第16回	試験	
第1回	カウンセリング																																																				
第2回	クライアントの話(1)																																																				
第3回	"	(2)																																																			
第4回	話しの背景(1)																																																				
第5回	"	(2)																																																			
第6回	クライアントの心理(1)																																																				
第7回	"	(2)																																																			
第8回	クライアントの理解(1)																																																				
第9回	"	(2)																																																			
第10回	技法論	感情の受容																																																			
第11回	"	感情の反射																																																			
第12回	"	感情の明確化																																																			
第13回	"	非指示的リード																																																			
第14回	対話分析																																																				
第15回	まとめ																																																				
第16回	試験																																																				
成績評価の方法	<p>試験による評価。出席日数が不足した場合には、学校側が定めた事項に準拠して対応する。</p>																																																				
テキスト・参考書等	<p>福山製造著 独習入門カウンセリングワークブック 金子書房 2006、 プリント他等。 参考書は必要に応じて紹介する。</p>																																																				
履修上の留意点	<p>学生へのメッセージ： 人間を理解しようとする時、相手の話を聴くという態度はとても大切である。この技術は、受講生の対人関係を円滑なものにしていくと考えられる。</p>																																																				
備考																																																					